

Title	空間 $B_{\{p, \mu\}}(\mathbb{R}^N)$ における跡作用素について (作用素イデヤルの研究)
Author(s)	板野, 暢之
Citation	数理解析研究所講究録 (1977), 306: 1-17
Issue Date	1977-08
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2433/103851">http://hdl.handle.net/2433/103851</a>
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

空間  $B_{p,\mu}(R^N)$  における跡作用素について.

広島大 総合科 板野 暢之

$\mathcal{H}_{(m)}(R^N)$  はユークリッド空間  $R^N$  での緩増加超関数  $u \in \mathcal{S}'(R^N)$  で, その Fourier 変換  $\hat{u}$  が局所可積分関数, かつ

$$\int_{R^N} |\hat{u}(\xi)|^2 (1+|\xi|^2)^m d\xi < \infty$$

となる  $u$  全体の作る空間である. これは temperate weight function  $\mu$  として  $(1+|\xi|^2)^{m/2}$  とした場合の空間  $H^m(R^N)$  である.  $\mathcal{H}_{(m,\delta)}(R^N)$  も  $H^m(R^N)$  の特殊な場合であり, これは偏微分方程式論でよく使われてくる基礎空間である.

$m > \frac{1}{2}$ ,  $l \leq m - \frac{1}{2}$  より小さい最大整数とすると, 写像

$$\mathcal{H}_{(m)}(R^N) \ni u \rightarrow (u(x,0), \dots, \frac{\partial^l}{\partial x_N^l} u(x,0)) \in \prod_{j=0}^l \mathcal{H}_{(m-j-\frac{1}{2})}(R^N)$$

は epimorphism であることが知られている.

== 以下, 空間  $B_{p,\mu}(R^N)$  ( $B_{2,\mu}(R^N) = H^m(R^N)$ ) において跡作用素を中心として研究し, 超関数の筆跡積分, section との関係が明らかになる. とくに上記に対応する trace mapping が, epimorphism になる簡単な十分条件を求めた.

$R^N$  とその共役空間  $R^N$  の任意の点  $x = (x_1, \dots, x_N)$ ,  $\xi = (\xi_1, \dots, \xi_N)$

とし、そのスカラー積を  $\langle x, \xi \rangle = \sum x_j \xi_j$ ,  $x$  の長さ  $|x| = (\sum x_j^2)^{1/2}$  とする。微分演算子  $D_j = \frac{1}{i} \frac{\partial}{\partial x_j}$  に対して  $D = (D_1, \dots, D_N)$  とおき、多項式  $P(\xi) = \sum a_\alpha \xi^\alpha$  に対して  $P(D) = \sum a_\alpha D^\alpha$ ,  $\bar{P}(\xi) = \sum \bar{a}_\alpha \xi^\alpha$ ,  $\tilde{P}_p(\xi) = \left\{ \sum_{|\alpha| \geq 0} |P^{(\alpha)}(\xi)|^p \right\}^{1/p}$  とおく。  $p \geq 1$  のとき  $P^{(\alpha)}(\xi) = i^{|\alpha|} D^\alpha P(\xi)$  である。

$\mathcal{S}(\mathbb{R}^N)$  の任意の元  $\phi$  に対して、その Fourier 変換を

$$\hat{\phi}(\xi) = \int_{\mathbb{R}^N} \phi(x) e^{-i\langle x, \xi \rangle} dx$$

とし、 $u \in \mathcal{S}'(\mathbb{R}^N)$  の Fourier 変換は

$$\langle \hat{u}, \phi \rangle = \langle u, \hat{\phi} \rangle, \quad \phi \in \mathcal{S}(\mathbb{R}^N)$$

と定義する。

$\mathbb{Z}^N$  上で定義された正値連続関数  $\mu(\xi)$  が

$$\mu(\xi + \eta) \leq C(1 + |\xi|)^k \mu(\eta), \quad \xi, \eta \in \mathbb{Z}^N$$

を満たす定数  $C, k$  が存在するとき、 $\mu$  は temperate

weight function と呼ばれる。  $\mu_1, \mu_2$  が temperate weight

function ならば、 $\mu_1 + \mu_2, \mu_1 \mu_2, 1/\mu_1$  は temperate weight

function である。  $C_1 \leq \mu_1/\mu_2 \leq C_2$  なる定数  $C_1, C_2$  が存

在するとき、 $\mu_1, \mu_2$  は同値といわれ  $\mu_1 \sim \mu_2$  と記す。

$1 \leq p \leq \infty$  とし、 $\mu$  は temperate weight function とする。  $u \in \mathcal{S}'(\mathbb{R}^N)$  で  $\hat{u}(\xi)$  が局所可積分関数、かつ

$$\|u\|_{p, \mu} = \left( \frac{1}{(2\pi)^N} \int |\hat{u}(\xi) \mu(\xi)|^p d\xi \right)^{1/p} < \infty$$

となる  $u$  全体の作る空間を  $B_{p, \mu}(\mathbb{R}^N)$  とする。  $p = \infty$  のとき

3,  $\|u\|_{p,\infty}$  は  $\sup |\hat{u}(\xi)\mu(\xi)|$  とする.  $p=2$  のとき  $B_{2,\mu}(R^N)$

は  $H^N(R^N)$  と一致す. 一般の空間の性質は, L. Hörmander,

L. R. Volevič - B. P. Panejah にあつてよく知られてゐる.

$B_{p,\mu}(R^N)$  は Banach 空間で  $\mathcal{S}(R^N) \subset B_{p,\mu}(R^N) \subset \mathcal{S}'(R^N)$  であり,

$p < \infty$  の場合  $\mathcal{D}(R^N)$  が  $B_{p,\mu}(R^N)$  で稠密で,  $B_{p,\mu}(R^N)$  の strong dual  $(B_{p,\mu}(R^N))'$  は  $B_{p',1/\mu}(R^N)$  ( $\frac{1}{p} + \frac{1}{p'} = 1$ ) である.

3. 以下  $1 < p < \infty$  とする.

$u \in B_{p,\mu}(R^N)$ ,  $w \in B_{p',1/\mu}(R^N)$  に対して

$$\langle w, \bar{u} \rangle = \frac{1}{(2\pi)^N} \int_{\mathbb{R}^N} \hat{w} \bar{\hat{u}} d\xi.$$

$N = n+m$  とし,  $x = (x', x)$ ,  $x' = (x_1, \dots, x_n)$ ,  $x = (x_{n+1}, \dots, x_N)$ ,  $\xi = (\xi', \xi)$ ,  $\xi' = (\xi_1, \dots, \xi_n)$ ,  $\xi = (\xi_{n+1}, \dots, \xi_N)$ ,  $\partial = D_{x'} D_x$  と記す.

Volevič - Panejah は  $\mu$  が  $\mathbb{R}^{n+m}$  上の temperate weight function のとき

$\int_{\mathbb{R}^m} \mu(\xi', \xi) d\xi$  は  $\mathbb{R}^n$  の任意の点  $\xi'$  で発散するか, 有限

に収束するか, 1) つかれかであり, 42章すると

きは,  $\mathbb{R}^n$  上の temperate weight function である. と記す

(T).

$\mathcal{D}(R^{n+m})$  の任意の元  $u(x)$  に対して  $u(x', 0) \in \mathcal{D}(R^n)$  と対応

させる写像は連続である.  $\mathcal{D}(R^{n+m})$  は  $B_{p,\mu}(R^{n+m})$  で稠密である.

もし  $u \rightarrow u(x', 0)$  が  $B_{p,\mu}(R^{n+m})$  から  $\mathcal{D}'(R^{n+m})$  に連続的に拡張されるならば,

この拡張された写像を trace mapping

と呼び,  $u$  のこの写像による像を  $u$  の  $t=0$  上の

trace とよみ  $u(x', 0)$  と記す。

これは、任意の  $\phi \in \mathcal{D}(R^n)$  に対して

$$\phi \otimes \delta \in B_{p, 1/\mu}(R^{n+m})$$

が成り立つことは、 $B_{p, \mu}(R^n)$  の任意の元  $u$  が  $\text{trace } u(x', 0)$

をもつための条件は  $1/\mu(x', z) \in L^{p'}(R^m)$  である。

$\mathcal{S}(R^{n+m})$  の任意の元  $u$  に対して

$$u(x', 0) = \frac{1}{(2\pi)^{n+m}} \iint \hat{u}(z', z) e^{i\langle x', z' \rangle} dz' dz = \frac{1}{(2\pi)^n} \int \hat{u}_r(x', z) dz$$

より

$$\widehat{u(x', 0)} = \frac{1}{(2\pi)^n} \int_{\mathbb{R}^m} \hat{u}(z', z) dz \quad \text{を得る。} \quad \text{すなわち式}$$

$P(z) = \widehat{p}(z)$  と  $\tilde{p}_p(z)$  は  $z$  の temperate weight function である

とわかる

定理 1.  $P(z) = p(z', z)$  は non-trivial polynomial,  $\mu \in \mathbb{R}^{n+m}$  上の temperate weight function とする。  $B_{p, \mu}(R^{n+m})$  の各元  $u$  に対して  $R^n$  上の trace  $P(D)u(x', 0)$  が存在するための条件は、次の条件 (1), (2) の一つれかが成立する ことである。

$$(1) \quad \mathbb{R}^n \text{ のある点 } z' \text{ で } \frac{1}{M_{\tilde{p}_p, \mu}(z')} = \left\{ \int_{\mathbb{R}^m} \frac{\tilde{p}_p^{\mu'}(z', z)}{\mu^{\mu'}(z', z)} dz \right\}^{1/\mu'} < \infty.$$

$$(2) \quad \mathbb{R}^n \text{ の任意の点 } z' \text{ で } \int_{\mathbb{R}^m} \frac{|P(z', z)|^{\mu'}}{\mu^{\mu'}(z', z)} dz < \infty.$$

このとき、 $P(D)u(x', 0) \in B_{p, \mu_{\tilde{p}_p, \mu}}(R^n)$  である。

$B_{p, \mu}(R^{n+m})$  のすべての元  $u$  に対して  $P(D)u(x', 0) \in B_{p, \mu}(R^n)$  になるための条件は、次の条件 (1)', (2)' の一つれかである。

$$(1)' \quad \nu(z') \leq C_1 \mu_{p,p'}(z').$$

$$(2)' \quad \nu'(z') \int_{\mathbb{R}^n} \frac{|P(z', z)|^{p'}}{\mu^{p'}(z', z)} dz \leq C_2.$$

証.  $B_{p,\mu}(R^{n+m})$  の各元  $u$  が  $\text{trace } P(D)u(x', 0) \in \mathcal{D}'(R^n)$  と仮定する.

任意の  $\eta \in \mathbb{R}^{n+m}$  に対して写像  $u \rightarrow e^{i\langle x, \eta \rangle} u$  は  $B_{p,\mu}(R^{n+m})$  から  $B_{p,\mu}(R^{n+m})$  へ連続, また  $P(D) e^{i\langle x, \eta \rangle} u = e^{i\langle x, \eta \rangle} P(D+\eta) u$  より任意の  $\phi \in \mathcal{D}(R^n)$  に対し

$$B_{p,\mu}(R^{n+m}) \ni u \rightarrow \langle P(D+\eta)u(x', 0), \phi \rangle = \langle u, \bar{P}(D+\eta)(\phi \otimes \delta) \rangle$$

は  $B_{p,\mu}(R^{n+m})$  上の continuous linear functional, 即ち

$$\bar{P}(D+\eta)(\phi \otimes \delta) \in B_{p', 1/\mu}(R^{n+m}), \quad \phi \in \mathcal{D}(R^n).$$

従って  $\bar{P}(z+\eta) \hat{\phi}(z')/\mu(z) = \hat{\phi}(z') \sum_{|\alpha| \geq 0} \frac{\eta^\alpha}{\alpha!} \bar{P}^{(\alpha)}(z)/\mu(z) \in L^{p'}(\mathbb{R}^{n+m}).$

$\{\eta^\alpha\}$  は一次独立だから, 各  $\alpha$  に対して  $\hat{\phi}(z') \bar{P}^{(\alpha)}(z)/\mu(z) \in L^{p'}(\mathbb{R}^{n+m})$ . 故に  $\mathbb{R}^n$  の a.e. の点  $z'$  で  $\int_{\mathbb{R}^m} \frac{|\bar{P}^{(\alpha)}(z', z)|^{p'}}{\mu^{p'}(z', z)} dz < \infty$ .

$\bar{P}, \mu$  は temperate weight function だから, 上の積分は, すべての点  $z' \in \mathbb{R}^n$  で存在し temperate weight function である.

(1)  $\Rightarrow$  (2) は明らかであるから (2) を仮定する.

$$\widehat{P(D)u(x', 0)}(z') = \frac{1}{(2\pi)^n} \int_{\mathbb{R}^m} P(z) \hat{u}(z) dz, \quad u \in \mathcal{D}(R^{n+m})$$

より, 任意の  $\phi \in \mathcal{D}(R^n)$  に対して

$$\begin{aligned} |\langle P(D)u(x', 0), \bar{\phi} \rangle| &= \frac{1}{(2\pi)^{n+m}} \left| \int_{\mathbb{R}^{n+m}} P(z) \hat{u}(z) \bar{\hat{\phi}}(z') dz \right| \\ &\leq \frac{1}{(2\pi)^{n+m}} \left( \int_{\mathbb{R}^n} |\hat{\phi}(z')|^{p'} \left( \int_{\mathbb{R}^m} \frac{|P(z)|^{p'}}{\mu^{p'}(z)} dz \right) dz' \right)^{1/p'} \left( \int_{\mathbb{R}^m} |\hat{u}(z)|^p \mu^p(z) dz \right)^{1/p}. \end{aligned}$$

$P(z) = \sum_{|a'| \geq 0} \frac{z^{a'}}{a'!} P^{(a')}(0, z)$  と仮定から  $\int_{\mathbb{R}^n} \frac{|P^{(a')}(0, z)|^{p'}}{\mu^{p'}(z)} dz < \infty$ .  $z, z'$  に  
 $\mu(0, z) \leq C(1+|z'|^k) \mu(z', z)$  より

$$\int_{\mathbb{R}^n} \frac{|P^{(a')}(0, z)|^{p'}}{\mu^{p'}(z', z)} dz \leq C^{p'}(1+|z'|^k)^{p'} \int_{\mathbb{R}^n} \frac{|P^{(a')}(0, z)|^{p'}}{\mu^{p'}(0, z)} dz.$$

従って  $\int_{\mathbb{R}^n} \frac{|P(z)|^{p'}}{\mu^{p'}(z)} dz$  は  $z'$  にかんして緩増加関数である。す  
 べて  $\mathcal{D}(\mathbb{R}^{n+m})$  は  $B_{p, \mu}(\mathbb{R}^{n+m})$  で稠密だから  $B_{p, \mu}(\mathbb{R}^{n+m})$  の任意の元  $u$   
 は trace  $P(D)u(x', 0)$  をもつ。

なお  $\mathcal{D}(\mathbb{R}^{n+m})$  の任意の元  $u$  に対して

$$\|P(D)u(x', 0)\|_{p, \mu_{\tilde{p}, p'}} \leq \left(\frac{1}{2\pi}\right)^{n/p'} \|u\|_{p, \mu}$$

を示すことができる。このことから  $B_{p, \mu}(\mathbb{R}^{n+m})$  の任意の元  $u$   
 に対して  $P(D)u(x', 0)$  は  $B_{p, \mu_{\tilde{p}, p'}}(\mathbb{R}^n)$  に属するといえる。  
 後半の証明も同様である。

定理 2  $\frac{1}{\mu_{\tilde{p}, p'}(z)} = \int_{\mathbb{R}^n} \frac{\tilde{P}_{p'}(z', z)}{\mu^{p'}(z', z)} dz$   $\int_{\mathbb{R}^n} \frac{1}{\mu^{p'}(z', z)} dz < \infty$  とする。写像

$$\mathcal{T}: B_{p, \mu}(\mathbb{R}^{n+m}) \ni u \rightarrow P(D)u(x', 0) \in B_{p, \mu_{\tilde{p}, p'}}(\mathbb{R}^n)$$

が epimorphism になるための条件は次の条件の 1) だけである。

(1)  $\mathcal{T}$  の range が  $B_{p', 1/\mu}(\mathbb{R}^{n+m})$  の中に含まれる。

(2)  $\frac{1}{\mu_{\tilde{p}, p'}(z)} = \int_{\mathbb{R}^n} \frac{|P(z', z)|^{p'}}{\mu^{p'}(z', z)} dz$  が temperate weight function になる。

(3)  $f(z')$  が  $\mathbb{R}^n$  の局所可積分関数で  $f(z')\tilde{P}(z)/\mu(z) \in L^{p'}(\mathbb{R}^{n+m})$  なる

5 is"  $f(z)/\mu_{\tilde{p},p}(z) \in L^p(\mathbb{Z}^n)$  である。

である  $\nu_{p'}(z) \sim \mu_{\tilde{p},p}(z)$  である。

この定理から  $P(z, z)$  が  $z$  のみの多項式のと看

$$\frac{1}{\nu_{p'}(z)} = \int_{\mathbb{Z}^n} \frac{|P(z)|^{p'}}{\mu_{\tilde{p},p}(z, z)} dz \quad \left\{ \frac{1}{p'} < \infty \right.$$

であるならば、 $\nu_{p'}$  は  $\mathbb{Z}^n$  上の temperate weight function である、写  
像  $u \rightarrow P(D_z)u(x', 0)$  は  $B_{p,\mu}(R^{n+m})$  から  $B_{p,\nu_{p'}}(R^n) \wedge$  の epimorphism  
である。

$M \geq$  non-negative integer とし、  $\int_{\mathbb{Z}^n} \frac{|z|^{Mp'}}{\mu_{\tilde{p},p}(z, z)} dz < \infty$  とする。

non-negative integer  $k_j$  の組  $k = (k_1, \dots, k_m)$  が  $|k| \leq M$  となる

$$\frac{1}{\nu_{k,p}(z)} = \int_{\mathbb{Z}^n} \frac{|z|^{k,p'}}{\mu_{\tilde{p},p}(z, z)} dz \quad \left\{ \frac{1}{p'} \right.$$

とあり、trace mapping  $\tau$  :

$$B_{p,\mu}(R^{n+m}) \ni u \rightarrow \{D_z^k u(x', 0)\}_{|k| \leq M} \in \prod_{|k| \leq M} B_{p,\nu_{k,p'}}(R^n)$$

を考へる。  $\tau$  は  $H' = \prod_{|k| \leq M} B_{p',1/\nu_{k,p'}}(R^n)$  から  $B_{p',1/\mu}(R^{n+m})$

への写像で  $v = \{v_k\}_{|k| \leq M} \in H'$  に対して

$$\widehat{\tau v}(z) = \sum_{|k| \leq M} \widehat{v}_k(z) z^k$$

とある。  $\tau$  は injective である。  $\tau$  の逆像を得る。



定理 3.  $\tau$  が epimorphism になるための条件は,  $\tau$  の range が  $B_{p', 1/\mu}(R^{n+m})$  で閉じていることである.

定理 4.  $p=2$  のとき,  $\tau$  が epimorphism になるための条件は 次の条件のうちのいくつかが成立することである.

$$(1). \det |X_{Rre}| \geq C \prod_{|R|=M} X_{2R} \quad \tau \in L \quad X_R(z) = \int_{\mathbb{Z}^n} \frac{z^k}{\mu(z; z)} d\tau.$$

$$(2). \quad u \in H^{1/p}(R^{n+m}) \quad \tau, \quad \hat{u}(z) = \sum_{|R| \leq M} f_R(z') z^k \quad \tau \in L,$$

すなわち  $k$  に對して  $f_k / \nu_{k,2} \in L^2(\mathbb{Z}^n).$

$$(3) \quad u \in H^{1/p}(R^{n+m}) \quad \tau, \quad \hat{u}(z) = \sum_{|R| \leq M} f_R(z') z^k \quad \tau \in L,$$

$$j = 1, 2, \dots, m \quad \text{に對して}$$

$$\hat{u}(z', z_1, \dots, z_{j-1}, \frac{z_j}{2}, z_{j+1}, \dots, z_m) / \mu(z) \in L^2(\mathbb{Z}^{n+m}).$$

$1 < p < \infty$  なる任意の  $p$  に對して

定理 5. 次の条件は同値である.

$$(1) \quad u \in B_{p', 1/\mu}(R^{n+m}), \quad \hat{u}(z) = \sum_{|R| \leq M} f_R(z') z^k \quad \tau \in L$$

$$\text{すなわち } k \text{ に對して } f_k / \nu_{k,p'} \in L^p(\mathbb{Z}^n).$$

$$(2) \quad u \in B_{p', 1/\mu}(R^{n+m}), \quad \hat{u}(z) = \sum_{|R| \leq M} f_R(z') z^k \quad \tau \in L$$

$$j = 1, 2, \dots, m \quad \text{に對して}$$

$$\hat{u}(z', z_1, \dots, z_{j-1}, \frac{z_j}{2}, z_{j+1}, \dots, z_m) / \mu(z) \in L^{p'}(\mathbb{Z}^{n+m}).$$

$$(3) \quad u \in B_{p', 1/\mu}(R^{n+m}), \quad \hat{u}(z) = \sum_{|R| \leq M} f_R(z') z^k \quad \tau \in L,$$

$$\text{任意の整数 } l_j \geq 0 \text{ に對して } \hat{u}(z', \frac{z_1}{2^{l_1}}, \dots, \frac{z_m}{2^{l_m}}) \in L^{p'}(\mathbb{Z}^{n+m}).$$

このとき, 上記 trace mapping  $\tau$  は epimorphism である。

証) (1)  $\Rightarrow$  (2). (1) より  $f_R / \nu_{R, \mu} \in L^p(\mathbb{Z}^n)$ . これは  $f_R(z) z^k / \mu(z) \in L^p(\mathbb{Z}^{n+m})$  を意味する.  $f_R(z) z^k / z^k \mu(z) \in L^p(\mathbb{Z}^{n+m})$  と  $k=0, \dots, 2^m-1$  を加えると  $\hat{u}(z', z_1, \dots, \frac{z_1}{2}, \dots, z_m) / \mu(z) \in L^p(\mathbb{Z}^{n+m})$  を得る。

(2)  $\Rightarrow$  (3). (2) より  $\hat{u}(z', z_1, \dots, \frac{z_1}{2}, \dots, z_m) / \mu(z) \in L^p(\mathbb{Z}^{n+m})$ .  $\exists k$   
 $\hat{u}(z', z_1, \dots, \frac{z_1}{2}, \dots, z_m) = \sum_{|k| \leq M} f_R(z) z^k / z^k$  より  $\hat{u}(z', z_1, \dots, \frac{z_1}{2}, \dots, z_m) / \mu(z) \in L^p(\mathbb{Z}^{n+m})$ .  
 これは  $\tau$  より  $\hat{u} / \mu \in L^p(\mathbb{Z}^n)$  である。

(3)  $\Rightarrow$  (1). (3) より  $\hat{u}(z', \frac{z_1}{2^{i_1}}, \dots, \frac{z_m}{2^{i_m}}) / \mu(z) \in L^p(\mathbb{Z}^{n+m})$ .  $i_1, \dots, i_{m-1}$  を固定して  $i_m \in 0, 1, \dots, M$  と動かすことにすると, 各  $j = 0, 1, \dots, M$  に対して

$$\sum_{|k| + |k_{m-1}| \leq M-j} f_{R, \dots, R_{m-1}}(z) \left(\frac{z_1}{2^{i_1}}\right)^{k_1} \dots \left(\frac{z_{m-1}}{2^{i_{m-1}}}\right)^{k_{m-1}} z_m^j / \mu(z) \in L^p(\mathbb{Z}^{n+m}).$$

この条件下で  $k$  を動かすと,  $|k| \leq M$  となるすべての  $k$  に対して

$$f_R(z) z^k / \mu(z) \in L^p(\mathbb{Z}^{n+m}), \text{ すなわち } f_R / \nu_{R, \mu} \in L^p(\mathbb{Z}^n) \text{ を得る.}$$

(3) が成立すると,  $\tau$  の range が  $B_{p', 1/\mu}(R^{n+m})$  で閉じていることを示す。

$$\vec{v}^j = (v_k^j)_{|k| \leq M} \in H' = \prod B_{p', 1/\mu}(R^n) \text{ に対して}$$

$\tau \vec{v}^j$  が  $B_{p', 1/\mu}(R^{n+m})$  で  $u$  に収束するとする。即ち

$$\sum_{|k| \leq M} \hat{v}_k^j(z) z^k / \mu \text{ は } L^p(\mathbb{Z}^{n+m}) \text{ で } \hat{u} / \mu \text{ に収束する. } \mu \text{ は正}$$

値連続関数だから  $\sum \hat{v}_k^j(z) z^k$  は  $L^1_{loc}(\mathbb{Z}^{n+m})$  で  $\hat{u}$  に収束する。

$$\text{このことから } \hat{u} = \sum_{|k| \leq M} \hat{v}_k^j(z) z^k, \quad \hat{v}_k^j \in L^1_{loc}(\mathbb{Z}^{n+m})$$

$$\text{と書かれる. (3) より } \hat{u}(z', \frac{z_1}{2^{i_1}}, \dots, \frac{z_m}{2^{i_m}}) / \mu =$$

$$\sum \hat{v}_k(z') \left(\frac{z_1}{z''_1}\right)^{k_1} \cdots \left(\frac{z_m}{z''_m}\right)^{k_m} / \mu \in L^{p'}(\mathbb{R}^{n+m}). \quad i_1, \dots, i_{m-1} \text{ 固定して}$$

$i_m = 0, 1, \dots, M$  と動かす = とに依り, 各  $j = 0, 1, \dots, M$  に対して

$$\sum_{k_1 + \dots + k_{m-1} \leq M-j} \hat{v}_k(z') \left(\frac{z_1}{z''_1}\right)^{k_1} \cdots \left(\frac{z_{m-1}}{z''_{m-1}}\right)^{k_{m-1}} z''_m^j / \mu \in L^{p'}(\mathbb{R}^{n+m})$$

を得る. この操作をくりかえす = とに依り,  $|k| \leq M$  なる  $k$

に対して  $\hat{v}_k(z') z^k / \mu \in L^{p'}(\mathbb{R}^{n+m})$  がわかる.  $v_k = \mathcal{F}_{z'}^{-1}(\hat{v}_k(z'))$  と

定義すれば  $v_k \in B_{p', 1/\nu_k}(\mathbb{R}^n)$  となり  $u$  は  $\mathcal{F}_{z'}$  の range に属

する.

系  $\mu$  が  $\mathbb{R}^{n+m}$  上の temperate weight function として

$$\mu(z', z_1, \dots, z_{j-1}, z_j, z_{j+1}, \dots, z_m) \geq C \mu(z', z), \quad j=1, 2, \dots, m$$

とみえ可定数  $C > 0$  が存在すれば, trace mapping  $\mathcal{T}$  は

epimorphism である.

次に  $\prod_{|k| \leq M} B_{p, \nu_k}(\mathbb{R}^n)$  の元を添えて, それを trace にもつ

$u \in B_{p, \mu}(\mathbb{R}^{n+m})$  を L. Hörmander の方法で構成する.

定理 6.  $\prod_{|k| \leq M} B_{p, \nu_k}(\mathbb{R}^n)$  の任意の元を  $\vec{f} = (f_k(x'))_{|k| \leq M}$  とする.  $\varphi$  は  $\mathcal{D}(\mathbb{R}^n)$  の元で 0-近傍で 1 に等しい任意の関数とす. temperate weight function  $\mu(z', z)$  に対して

$$\mu(z', \lambda_R(z')z) \leq \lambda_R^{\frac{1}{p} + \frac{m}{p'}}(z') \nu_R(z') \overline{\mu}_R(z)$$

とみたす  $\Xi^n$  上の正値連続関数  $\lambda_k$  と,  $\Xi^n$  上で緩増加の連続関数  $\Xi_k(z)$  が存在するとき,

$$\hat{u}_{\lambda'}(z', t) = \sum_{|k| \leq M} \hat{f}_k(z') \frac{(it)^k}{k!} \psi(\lambda_k(z')t)$$

と  $\bar{t} < t$ ,  $u \in B_{p, \mu}(R^{n+m})$  で  $|k| \leq M$  なる各  $k$  に対して

$$D_z^k u(x', 0) = f_k(x') \quad \text{とみたす.}$$

$$\begin{aligned} \text{証.} \quad \hat{u}(z', z) &= \sum_{|k| \leq M} \frac{(-i)^{|k|}}{k!} \hat{f}_k(z') D_z^k \int_{\Xi^m} \psi(\lambda_k t) e^{-i\langle t, z \rangle} dz \\ &= \sum_{|k| \leq M} \frac{(-i)^{|k|}}{k!} \hat{f}_k(z') \frac{1}{\lambda^{(|k|+m)-m}} D_z^k \hat{\psi}\left(\frac{z}{\lambda_k}\right) \end{aligned}$$

より

$$\begin{aligned} \int_{\Xi^{n+m}} |\hat{u}|^p dz &\leq C \sum_{|k| \leq M} \int_{\Xi^n} \frac{1}{(k!)^p} |\hat{f}_k(z')|^p \frac{dz'}{\lambda_k^{p(|k|+m)-m}} \int_{\Xi^m} |D_z^k \hat{\psi}(z)|^p |\mu(z', \lambda_k z)|^p dz \\ &\leq C \sum_{|k| \leq M} \int_{\Xi^n} \frac{1}{(k!)^p} |\hat{f}_k(z')|^p \lambda_k^p(z') dz' \int_{\Xi^m} |D_z^k \hat{\psi}(z)|^p |\Xi_k(z)|^p dz. \end{aligned}$$

$=$  ところで  $D_z^k \hat{\psi}(z) \in \mathcal{S}(\Xi^m)$ ,  $\Xi_k(z)$  は緩増加関数だから右辺の積分は収束する.  $u$  の作り方から  $D_z^k u(x', 0) = f_k(x')$  は明らか.

trace mapping と他の概念との関係を調べてみる.

$u, v \in \mathcal{D}'(R^N)$  とする.  $R^N$  上の任意の  $\delta$ -列  $\{f_j\}$  に対して, 超関数的極限  $\lim_{j \rightarrow \infty} (u * f_j)v$  が存在すれば,  $=$  の極限は一意的に定まるから,  $=$  を  $u, v$  の strict sense の乗法積

とよゝ  $u \cdot v$  とかく. 二つの任意の  $\delta$ -列  $\{p_j\}$  に對して

$$\lim_{j \rightarrow \infty} u(v * p_j) \text{ 存在する}$$

$$\lim_{j \rightarrow \infty} (u * p_j) v = \lim_{j \rightarrow \infty} u(v * p_j).$$

$\mathcal{D}(R^N)$  の元  $\phi$  が  $\phi \geq 0$ ,  $\int_{R^N} \phi dx = 1$  であるとき,  
 $\phi_\varepsilon(x) = \frac{1}{\varepsilon^N} \phi\left(\frac{x}{\varepsilon}\right)$  とおき, 上の  $\{p_j\}$  の代りに  $\{\phi_\varepsilon\}_{\varepsilon>0}$  とお  
 きかえたとき  $\lim_{\varepsilon \rightarrow 0} (u * \phi_\varepsilon) v$  が存在すれば weak sense の積  
 とよゝ  $u \cdot v$  とかく. 二つのとき  $\{\phi_\varepsilon\}_{\varepsilon>0}$  は 次の restricted  
 $\delta$ -sequence に對しておきかえられたとよゝか白石氏により示さ  
 れてゐる. Restricted  $\delta$ -seq. とは  $p_j \in \mathcal{D}(R^N)$  と

$$(i) \quad \text{supp } p_j \rightarrow \{0\} \quad (j \rightarrow \infty)$$

$$(ii) \quad \int p_j dx \rightarrow 1 \quad (j \rightarrow \infty)$$

$$(iii) \quad \int |x|^{1/k} |D^k p_j(x)| dx \leq M_k \quad (M_k \text{ は } p_j \text{ に無関係な定数})$$

であるときである.

strict sense の場合も同様に論じられるので weak sense の場  
 合に限って以下をべる.  $w \in \mathcal{D}'(R^m)$ ,  $u \in \mathcal{D}'(R^{n+m})$  に對して部  
 分積  $wu$  は  $(1 \otimes w)u$  が存在するとき, 二れで定義する.

$\delta \in \mathcal{D}'(R^m)$  とする.  $\delta u$  は  $R^m$  上の任意の restricted  $\delta$ -  
 seq.  $\{p_j\}$  に對して  $\lim_{j \rightarrow \infty} (\delta * p_j)u$  存在する  $\lim_{j \rightarrow \infty} \delta(u * p_j)$  と  
 して定義される. 二つの  $*$  は  $t$  にかんする partial con-  
 volution である.  $\{p_j\}$  は上の  $\phi_\varepsilon$  の代りに  $\{\phi_\varepsilon(t)\}_{\varepsilon>0}$  とおきか  
 えられた.

S. Łojasiewicz は超関数に對し section の概念を導入した。  
 $u \in \mathcal{D}'(R^{n+m})$  が  $R^n$  上に section  $\varepsilon \in \mathcal{D}'(R^n)$  を持つとは、超関  
 数的極限  $\lim_{\varepsilon \downarrow 0} u(x', \varepsilon t)$  が存在し、 $t$  に無関係であることであ  
 る。これは  $\delta u$  の存在と同値である。事実  $u$  が  $R^n$  上  
 に section を持つとは、 $\phi(t) \geq 0$ ,  $\int_{R^m} \phi(t) dt = 1$  なる任意の  
 $\phi \in \mathcal{D}(R^m)$  に対して、超関数的極限  $\lim_{\varepsilon \downarrow 0} \langle u, \phi_\varepsilon \rangle$  が存在し、  
 $\phi$  に無関係にきつるものである。 $\langle u, \phi_\varepsilon \rangle \otimes \delta = \delta(u * \check{\phi}_\varepsilon)$   
 であるから section の存在は  $\delta u$  の存在と同値である。 $u$  の  
 section を  $\alpha$  とすると  $\alpha = \lim_{\varepsilon \downarrow 0} \langle u, \phi_\varepsilon \rangle$  であり、 $\forall x$   
 $\lim_{\varepsilon \downarrow 0} u(x', \varepsilon t) = \alpha \otimes \delta$ ,  $\delta u = \alpha \otimes \delta$  である。

定理 7. 空間  $B_{p,\mu}(R^{n+m})$  において次の条件は同値である。

- (1) trace mapping  $B_{p,\mu}(R^{n+m}) \ni u \rightarrow u(x', 0) \in \mathcal{D}'(R^n)$  が存在する。
- (2)  $B_{p,\mu}(R^{n+m})$  のすべての元  $u$  が section を持つ。
- (2)' 条件 (2) が strict dense である。
- (3)  $B_{p,\mu}(R^{n+m})$  のすべての元  $u$  に対し、 $\delta \in \mathcal{D}'(R^m)$  との乗  
 法積  $\delta u$  が存在する。
- (3)'  $B_{p,\mu}(R^{n+m})$  のすべての元  $u$  に対し  $\delta \cdot u$  が存在する。
- (4)  $\mathcal{D}(R^{n+m})$  のある  $\delta$ -列  $\{\rho_j\}$  に対し  $\lim_{j \rightarrow \infty} (u * \rho_j) \delta$  が  
 存在する。
- (5)  $\mathcal{D}(R^m)$  のある  $\delta$ -列  $\{\rho_j\}$  に対し  $\lim_{j \rightarrow \infty} \rho_j u$  が存在する。

証) (2), (3) の同値は既に済ませた. 同様 (2)', (3)' も同値.  
 (3)'  $\Rightarrow$  (3), (3)  $\Rightarrow$  (4), (5) は定義より明らかだから (1)  $\Rightarrow$  (3)', (4)  $\Rightarrow$  (1),  
 (5)  $\Rightarrow$  (1) を証明すればよい.

(1)  $\Rightarrow$  (3)'. (1) を仮定すれば任意の  $\gamma \in \mathcal{D}(R^n)$  に対し?  
 $\gamma \otimes \delta \in B_{p', 1/\mu}(R^{n+m})$ .  $u \in B_{p, \mu}(R^{n+m})$  とし,  $\{p_j\} \in R^{n+m}$  上の  
 任意の  $\delta$ -列とす.  $u * p_j$  は  $B_{p, \mu}(R^{n+m})$  で  $u$  に収束する.  
 任意の  $\phi \in \mathcal{D}(R^{n+m})$  に対して等式

$$\langle (u * p_j) \delta, \phi \rangle_{\mathcal{D}', \mathcal{D}} = \langle u * p_j, \phi(x', 0) \otimes \delta \rangle_{B_{p, \mu}, B_{p', 1/\mu}}$$

より  $\lim_{j \rightarrow \infty} (u * p_j) \delta$  の存在がわかる. 即ち  $\delta \cdot u$  が存在する.

(4)  $\Rightarrow$  (1).  $\{p_j\} \in \mathbb{R}^n$  を固定して  $\mathcal{D}(R^{n+m})$  での  $\delta$ -列とす.

$$B_{p, \mu}(R^{n+m}) \ni u \rightarrow (u * p_j) \delta = (u * p_j)(x', 0) \otimes \delta \in \mathcal{D}'(R^{n+m})$$

なる写像は, 各  $j$  に対して連続で, 空間  $B_{p, \mu}(R^{n+m})$  は  
 barreled だから写像

$$B_{p, \mu}(R^{n+m}) \ni u \rightarrow \lim_{j \rightarrow \infty} (u * p_j) \delta \in \mathcal{D}'(R^{n+m})$$

は連続である. 故に任意の  $\phi \in \mathcal{D}(R^{n+m})$  に対し?

$$\langle \lim_{j \rightarrow \infty} (u * p_j) \delta, \phi \rangle_{\mathcal{D}', \mathcal{D}} = \langle u, \omega_\phi \rangle_{B_{p, \mu}, B_{p', 1/\mu}}$$

なる  $\omega_\phi \in B_{p', 1/\mu}(R^{n+m})$  が存在する.

$u = \alpha \in \mathcal{D}(R^{n+m})$  とすると

$$\langle \alpha \delta, \phi \rangle_{\mathcal{D}', \mathcal{D}} = \langle \alpha, \phi(x', 0) \otimes \delta \rangle = \langle \alpha, \omega_\phi \rangle.$$

$\mathcal{D}(R^{n+m})$  は  $B_{p,\mu}(R^{n+m})$  で稠密だから  $\phi(x,0) \otimes \delta = \omega_p \in B_{p,1/\mu}(R^{n+m})$ .

すなわち trace mapping が存在する.

(5)  $\Rightarrow$  (1).  $\{f_j\} \in \mathcal{D}(R^n)$  である  $\delta$ -列とする. 写像

$$B_{p,\mu}(R^{n+m}) \ni u \longrightarrow f_j u \in \mathcal{D}'(R^{n+m})$$

は連続であるから Banach-Steinhaus の定理から, 写像

$$B_{p,\mu}(R^{n+m}) \ni u \longrightarrow \lim_{j \rightarrow \infty} f_j u \in \mathcal{D}'(R^{n+m})$$

は連続になり, 任意の  $u \in \mathcal{D}(R^{n+m})$  に対して  $\lim_{j \rightarrow \infty} f_j u = u(x,0) \otimes \delta$

だから,  $\omega_p =$  とは trace mapping の存在を示している.

$$1/\mu(x,z) \in L^{p'}(\mathbb{R}^n) \text{ を仮定し, } \frac{1}{\nu_p(x)} = \left\{ \int \frac{1}{\mu^{p'(z,z)} dz} \right\}^{1/p'} \text{ とおく.}$$

$t_0 \in \mathbb{R}^n$  の任意の点,  $u \in \mathcal{D}(R^{n+m})$  の元とすると,  $\tau_{t_0} u \in \mathcal{D}(R^{n+m})$  で,  $(\tau_{t_0} u)^\wedge = e^{i \langle t_0, z \rangle} \hat{u}$  である. 7.2 定理

1 の証明の中で  $\nu$  の代わりに

$$\|u(\cdot, t)\|_{p,\nu_p} \leq \left(\frac{1}{2\pi}\right)^{m/p'} \|u\|_{p,\mu}$$

である.  $B_{p,\mu}(R^{n+m})$  の任意の元  $u$  にとると,  $B_{p,\mu}(R^{n+m})$  の中で  $u = \lim u_j$  とする  $u_j \in \mathcal{D}(R^{n+m})$  が存在し

$$\|u_j(\cdot, t_0) - u(\cdot, t_0)\|_{p,\nu_p} \leq \left(\frac{1}{2\pi}\right)^{m/p'} \|u_j - u\|_{p,\mu}.$$

この式から  $u_j(\cdot, t_0)$  は  $B_{p,\nu_p}(R^n)$  で  $u(\cdot, t_0)$  に  $t_0$  にかんして

一様に収束する ことがわかる.  $x \rightarrow u_j(\cdot, t)$  は  $B_{p,\nu_p}(R^n)$ -valued continuous function だから  $u(\cdot, t)$  は  $t$  にかんして連



続に  $B_{p,\nu}(R^n)$ -valued function  $u(t)$  である.  $\square$

定理 8.  $1/\mu(0,z) \in L^1(\mathbb{R}^m)$  と仮定すると,  $B_{p,\mu}(R^{n+m})$  のすべ  
ての元は  $B_{p,\nu_p}(R^n)$ -valued continuous function  $u(t)$  で与えられる超関数  
とみなされる. ここで  $\nu_p$  は  $\frac{1}{\nu_p(t)} = \left\{ \int_{\mathbb{R}^m} \frac{1}{\mu^2(t,z)} dz \right\}^{1/p}$  で定ま  
る  $\mathbb{R}^n$  上の temperate weight function である.

証  $\mathcal{D}(R^{n+m})$  の任意の元  $\phi$  に対して

$$\langle u, \phi \rangle = \int_{R^n} \langle u(t), \phi(\cdot, t) \rangle dt$$

と置く.

$u(t) = u(x, t) \in \mathcal{D}(R^{n+m})$  にとると  $\langle u, \phi \rangle = \langle u, \phi \rangle_{\mathcal{D}', \mathcal{D}}$ .

$\mathcal{D}(R^{n+m})$  は  $B_{p,\mu}(R^{n+m})$  で稠密であるから,  $\square$  の関係は  $B_{p,\mu}(R^{n+m})$   
の任意の元  $u$  に対して成立する.

### 引用文献

- [1] L. Hörmander, Linear partial differential operators, Springer,  
(1963).
- [2] M. Itano, On a trace theorem for the space  $H^\mu(R^N)$ , J. Sci.  
Hiroshima Univ. Ser. A-I, 30(1966), 11-29.
- [3] M. Itano, Note on the canonical extensions and the boundary

values for distributions in the space  $H^{\mu}$ , Hiroshima Math.

J. 1(1971), 405-425.

[4] B. P. Panejah, Theorems on traces and on the extension of distributions, Mat. Zametki 2(1967), 577-588.

[5] R. Shiraishi, On the value of distributions at a point and the multiplicative products, J. Sci. Hiroshima Univ. Ser. A-I, 31(1967), 89-104.

[6] L. R. Volevič and B. P. Panejah, Some spaces of generalized functions and embedding theorems, Uspehi Mat. Nauk, 121 (1965), 3-74.